

温故創新

さらなる飛躍を目指して



田川市長 伊藤 信勝

新年明けまして

おめでと〜うございませす。

市民の皆様におかれましては、清々しい新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、本市の炭鉱遺産である二本煙突と伊田竪坑櫓を含む「九州・山口の近代化産業遺産群」が、世界遺産暫定一覧表に登録されることが決まり、念願の本登録に向けての機運が盛り上がりを見せています。

折しも、建造百周年を迎えた二本煙突は、美しくライトアップすることができました。

また、3回目を迎えたTAGAWAコーポルメイン・フェスティバルも年々定着してきており、今年も二千人が総踊りに参加するなど、2日間で延べ一万四千人が訪れ、「炭坑節のふるさと田川」を大いに印象付けました。

「故きを温ねて、新しきを創る」。どんなに時代が変わっても、私たちは先人が血と汗と涙で築き上げた歴史と文化を大切にしながら、誇れる郷土づくりをしていかなければなりません。

就任以来、私は、「市民参加のまちづくり」を掲げてきました。まちでは、ボランティアでの清掃・草刈り活動や、中央運動公園のモミジの植樹などの環境改善活動が活発になり、人づくりと美しいまちづくりが同時に展開されています。こうした資源を観光に結びつけ、筑豊の他の観光資源と連携

を図りながら、花と緑のまち田川に人々をおもてなしできるように努めたいと思います。

また、福岡県立大学を通じた中国・韓国などとの学術交流、同じ旧産炭地である北海道釧路市などとの産業文化交流、子どもたちの健全なる心身を育むスポーツ交流などを、さらに推進していきたいと考えています。

経済面では、サブプライムローン問題による国内経済への影響が深刻化しておりますが、そうした中でも、一昨年操業を開始した(株)トリアルカンパニーの本格稼働により、雇用が拡大しています。今後も、さらなる雇用の拡大に向け、白鳥工業団地と望岳台団地に企業誘致を進めていきます。

さらに、待望の烏尾トンネル(仮称)の開通は、福岡都市圏との距離を縮め、本市の定住・交流人口の増加と地域の振興発展に大きく貢献することでしょう。

厳しい時代ではありませんが、市税等の歳入確保対策など、さらなる改革を進めながら、健全財政を堅持し、安全で安心して暮らせるまちづくりを行なっていく所存であります。今後とも皆様のより一層のお力添えをお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして幸多き飛躍の年になりますことを心よりお祈り申し上げます、年頭のあいさつといたします。